若　者

70日間世界一周

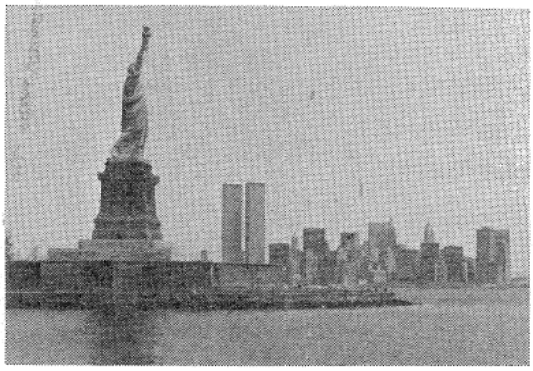
山　本　嘉　英*

昭和50年の初夏の頃，米国およびヨーロッパの化学企業を訪問する機会を得た．私にとって海外旅行は殆ど初めてといっていい程のもので多くの意味で勉強になった．今頃海外旅行といっても何ら珍しいことではなく，読者諸兄におかれても多くの方が旅行されたことであろうし，マスコミや各種案内書などによって欧米の最近の事情なども随分豊富に紹介されているので，何もたった70日程の短い経験だけで貴重な紙面を汚すこともないとは思うが，単なる観光旅行ではなく，欧米各国の企業人との接触を通して得た感想などないこともないので思いつくままに書いてみたい．

今回の旅行は，社命による海外の企業（主として化学企業）の技術調査が主な目的であり，欧米合わせて50社余りを訪問し多くの人々と話をすることができた．丁度第2次世界大戦後，最大最長の不況下にある人々の考え方，生活態度などを直接見，聞き，感じることができ，今後の仕事面，或は個人的な生活面においても大いに参考になったと思っている．

日本を出たのが4月26日，花曇りの麗かな天気の日だったことを覚えている．米国はロスアンゼルスを皮切りに米国を3週間，欧州大陸部を3週間，そしてイギリスを3週間訪問し梅雨あけ間近の7月4日にモスクワ経由で帰国した．およそ70日間の世界一周である．

米国はこの頃は景気も回復基調にあるといわれているが，私の訪問当時は不景気の真只中といった感じであった．失業率も8％を越えていた．自動車産業は特に不振で，私の訪問したデトロイトの市内などは荒廃という言葉がぴったりくる程の荒れようであった．掃除の行き届いてない黒ずんだビルには，平日の昼間だというのに人は一人もおりそうになく，窓ガラスも割れたままである．目抜き通りには昼間から酒を呑んだ浮浪者がうようよたむろしており，そこを車で通るだけでも薄気味悪かった．おまけに米国では護身用にピストルを個人所有することが認められているので，我々も夜など町を歩く時などは，いつどこからズドンとやられるかと大袈裟でなく心配な時もあった．今米国で最も治安状態の悪い都市はデトロイトだといわれているが，ニューヨークもこれに劣らず物騒な都市である．米国における会社の勤務時間は大体8時から5時である．5時になるとサラリーマン



ニューヨークマンハッタン島遠望

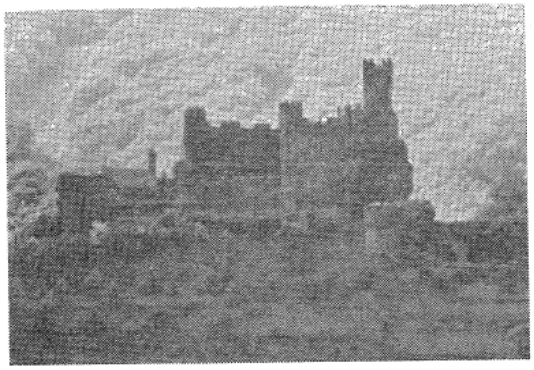
達は一斉に帰宅を始める．残業をして少し遅くまで会社にいるような人は殆どいないらしい．従って朝の通勤ラッシュ同様夕方5時前後ももものすごいラッシュとなり，片側5車線もある高速道路が延々数キロに渡って身動きとれないほどになる．そして6時7時になると都市からは人がいなくなってしまう．日本では8時9時といえば，まだまだ人通りも多く賑かであることを思うと不思議な感じがする．わざわざ混む時間に集中せず少し時間をずらせばよいのにと思うのだが，これには理由のあることが判った．

* 山本嘉英（YOSHIHIDE YAMAMOTO），三洋化成工業株式会社，新事業開発部企画室，企画担当部員，工学修士，石油化学

つまり賑かな間に帰らないで遅れて一人で帰ったりすると，よく強盗などにやられるので，混むのを承知で皆一斉に帰るのだそうである．一晩中営業している地下鉄には夜になると各車輛に1人ずつ警官が乗車せねばならない事情などを考えると，日本に住んでいてよかったと思う．

10月の天皇，皇后両陛下の御訪米や1976年に行われる米国建国200年記念祭など，日本にいると米国の化粧した顔はよく見ることができるが，素顔の米国は余り知ることができない．やむを得ぬこととは思うが，本当の米国を理解しようと思えば本当に米国民になった位の気持で米国民に接し，自分自身の肌で感じないといけないことがよく判った．

さて5月17日，米国をあとにして西独は一大産業都市デュッセルドルフに到着した．西独を皮切りにオーストリア，スイス，フランス，デンマーク，オランダ，ベルギーと欧州大陸部では合計7ケ国を訪問した．米国が建国200年なら，欧州はオットー大帝のフランク王国建国から数えても既に千年以上の歴史のあるところであり，絵から抜け出たのかと思われるような美しい風景が至る所に見受けられた．それも有名な所ではなく，町の片隅にもそんな風情の滞っ



ライン河のほとりの古城

ているのが嬉しかった．建築物も昔からある古いものが多く残っており，新しいビルディングともうまく調和しており今も十分使用に耐えている．欧州北部中部は地震が少ないので古い建物も壊れずに残っておれるのだとは思うが，日本では大阪中之島などにある明治時代の建物は取り壊さなければならなくなっているという話は少々寂しい感がする．

米国もそうだが欧州では特に古いもの，伝統を大切にするという習慣があるようである．ファッションひとつを例にとってみても，日本では常に流行が先行し，それに追われてばかりいる若い女性が多く，ロングスカートが流行すれば皆な制服の如くロングスカートを着ているが世界のファッションの最先端を行くパリですら，そんな光景は全く見られない．各自がそれぞれの個性に合わせて着ているといった感じでミニもあればマキシもある．また，総じて1着の服をうまく着こなして何年も着ているように見うけられ，着ている服自体も地味なものが多かった．事の良し悪しは別としても見習うべき事は多いような気がした．

いうまでもなく米国，欧州の会社は週休2日制を採用しており土曜日も休日である．1日の勤務時間は8時から5時までが普通であり，日本の平均9時から5時までに比べて長い感がするが昼休みの時間が日本に比べて長い（1時間半～2時間）ので実働時間は殆ど変わらない．特に欧州では普通の日でも昼食に1時間～2時間かかるが，客と一緒に食事をする時などは実に3時間余りも時間をかけて食事をすることになり，おまけに酒も呑む．我々の常識では少し考えられないことだが，欧米の人間は食事というものを非常に大切に考えており，単に栄養を補給する為だけでなく，重要なコミュニケーションの場だと考えている．また，欧州ではなま水が飲めないので子供の頃から水の代りにワインを呑む習慣がある．そんな理由でどうしても昼食時間が長くなり且つ酒を呑みながら食事をするということになるらしい．私の今回の旅行に於ても，各国の人と一緒に食事をすることが多かったが，一例としてフランスはリヨンで一企業を訪問した際，やはり昼食を御馳走になった．御多聞にもれず12時から始めた食事の終った時刻が3時である．この間話もするが食事の量も多く，酒の方もウィスキー，赤・白ワイン，ブランデーと種類も量も多い．相手は慣れているから平気な顔をしているが，こちらはそれ程酒に強い方ではないので酔っぱらってしま

わないよう苦労したことを覚えている．今回訪問した国の中ではフランスが最も長い昼休みを取る国であり，次いでフランスとよく似た文化を持つベルギーであろう．西独やデンマークはこの傾向は少なく，また昼休みも1時間と短い会社が多い．昼休みの長さに比例するわけでもないだろうが，西独，オランダ，デンマーク等はこの不況下でも比較的ましな方であり，フランス等南欧に近い国々は経営状態が悪い企業が非常に多いとのことである．

最後の訪問国イギリスに渡ったのは6月11日である．イギリスは他の欧米諸国と違い自動車は左側通行であるので一瞬なつかしい思いをした．しかしこの国は大英帝国の面影などとおの昔に飛んでなくなってしまったような感じで，産業も不振であり，かつての産業革命発祥の地マンチェスターなどはゴーストタウンさながらといったところであった．イギリスがかくも衰退した原因の一つは，やはり古い死んだ格式を重んじ過ぎたからではないかと思う．ロンドン滞在中に遇然エリザベス女王の誕生祝賀パレードを見る機会があった．エリザベス女王は素適な女性であるが，これを見物に来ていた人々の中にはシルクハットに燕尾服，そしてこうもり傘を持った紳士の多かったこと．女王一行が馬に乗って町中をパレードするだけのことにこれだけ大袈裟な服装をするのである．しかも休日ではなくて平日に．これでは新鮮なアイデアも生まれる筈がないし，産業も衰退するのはムリもないと思った．古い伝統には確かに良いもの，学ぶべきものも多いが，それを自分で消化

誕生パレードのエリザベス女王

して次の新しいものへと発展させるべく努力がなされないと，進歩というものはないと痛感した．正に「温故知新」の精神を忘れてはならないと思う．

長いようで短い「70日間世界一周」の旅行であったが，これを通して私が感じた主なことは大体以上のようなことである．とりとめもなく思いつくままに書いたため要領を得ない文章になってしまったことをお許し頂きたい．ともあれ無事に7月4日，羽田に帰ってきた時は心底ほっとした．　（以上）